

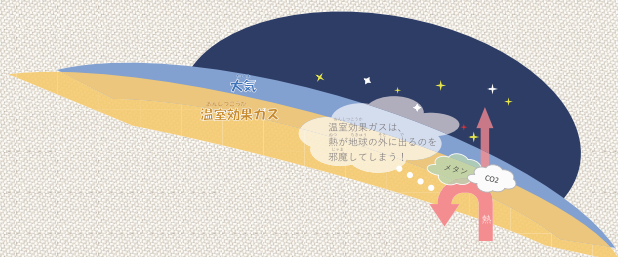


地球温暖化

地球の表面は太陽のエネルギーで温められています。温められた熱の一部は大気中の温室効果ガスに吸収されて、地球上に残ります。大気中の温室効果ガスの量が適度なら、地球全体の気温はほどよく保たれます。ところが、温室効果ガスが増えすぎると熱が余分に残ります。すると、地球全体の気温が上がってしまいます。

世界ではどうなっているの？

生ゴミなどの有機物が適切に処理されずに埋め立てられ、二酸化炭素の20倍以上の温室効果があるメタンガスが発生し、地球温暖化の要因になっています。温暖化が進むと、豪雨などの自然災害や感染症の拡大、生態系への悪影響など、人だけでなく地球全体の生物に影響が出ると言われています。



日本（東京）ではどのように取り組んでいるのだろう？

東京23区の可燃ごみは、東京二十三区清掃一部事務組合の清掃工場で適切に処理しています。清掃工場では生ごみを焼却して灰にすることで、埋立処分場でのメタンガスの発生を防止しています。灰はもともとの大きさの20分の1程度になるため、埋立処分場の有効利用にもつながります。また、セメントの原料にするなど資源化にも取り組んでいます。

焼却したときに発生する熱は発電に利用しています。生ゴミなどのバイオマス成分を焼却した熱で作った電気は二酸化炭素実質ゼロの再生可能エネルギーとされています。